

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2022年
2月7日
第128号



イチイ（イチイ科）

温室横で小さな花芽が膨らみ始めています。雌雄異株の針葉樹で、冷涼な山地に自生します。3月頃、3ミリ位の淡横色の花が開花しますが、目立ちません。果実の外側の赤い部分は甘く、生食したり、果実酒にしますが、内部の種子は有毒です。葉が民間薬の一位葉（イチイヨウ）となり、糖尿病、腎臓病に効果があるとされますが、有毒なのでお勧めしません。和名の由来は、古くに神官が手にする笏（しゃく）の材として使われ、位階の正一位から。薬学では、同属のタイヘイヨウイチイからは発見された抗がん薬、パクリタキセルが有名です。イチイを中国語で「紅豆杉」と言い、中国原産のイチイ属植物を原料にした食品が、この名で「がんに効く」として流行しました。その後、中国ではその毒性のために保健食品としての使用が禁止されましたが、日本ではまだ食品として販売されています。

カラシナ（アブラナ科）

圃場に色の無いこの時期、第二圃場では早くも黄色の花が目にとまります。中央アジア原産、日本には古い時代に渡来し、各地で栽培されています。花が咲いている時は、一般に菜の花（ナノハナ）に含まれます。その名の通り、種子や葉が辛いことから名付けられました。種子を芥子（ガイシ）と呼び、和からしの原料に利用します。ちなみに、洋からし（マスタード）の原料はシロガラシで、同じアブラナ科の別属の植物ですが、カラシナの別名がセイヨウカラシナなのがややこしいです。カラシナの葉茎にも辛味があり、油炒めや漬物などにします。漢名は「芥菜」で、『本草綱目』にもありますが、中医学では使用せず、中国でも食用か香辛料扱いです。